

1. はじめに

米国パウダーショー (International Powder & Bulk Solids Conference & Exhibition) の今夏開催が現実的になってきている。昨年開催される予定だったものが延期され、今年の8月24~26日に日程変更されたものである。延期の理由は言わずもがな新型コロナウイルスの流行にあるが、それだけに今年8月の開催についても危ぶむ声があることは事実である。しかし現在のワクチン接種ペースの高まりを見てみると、バイデン大統領の掲げた目標よりも早く、先数か月の間に米国民の大多数にワクチンが行き渡りそうである。現在のペースでワクチン接種が進めば、来場者のマスク着用義務など何らかの制約付きになると思うが、展示会は予定通り開催されると考えるのが自然である。なにしろ粉体関係で米国一の展示会である。新型コロナウイルス克服にける今年、関係者の期待値は例年以上に高まっていることと思う。

2. 担当者の選び方

米国パウダーショーの8月開催が現実味を帯びて来たとは言え、海外出張は依然として難しい企業がほとんどだと予想できる。中には出展に合わせて少人数での出張を検討する企業があるかもしれないが、この場合の人選が悩ましいのではないだろうか。新型コロナウイルス感染リスクを最小化するために少人数で参加するのは賢明だが、それだと全方位をカバーすることが難しくなるためである。

来場した顧客相手に電卓をたたきながら営業トークができ、かつ、図面を引きながら技術者と細かな仕様確認が可能で、かつ、それぞれを英語でこなせる人間がいればその方が適任である。しかしそのようなスーパーマンは少ないため、実際にはそれぞれの分野の代表者数人が参加するのが普通である。

今年はそうした普通の対応ができないことが想定されるため、営業に力点を置くか、技術発進に力点を置くかある程度決定した上で、そこに一定の英語力を持った人が参加するというのが一番バランスの良い対策かもしれない。これを実施するに当たっては、ブースサイズ (1コマに2~3名程度) を踏まえ、立ち寄ってもらいやすいブースにするため、内一人は米国人が好ましい。通訳も可能な米国人をテンポラリーに採用できるので検討されたい。

3. 英語以外の共通言語 (数字と単位)

実際に展示会が始まると、英語そのものよりも苦労する可能性があるのが使用単位の違いである。いくら英語が達者でも単位の違いをよく理解していないがために話が噛み合わないということは往々にしてある。

逆に英語が不達者でも単位の違いを押さえていることで会話が前にスムーズに進むことも、特に技術者の間ではよくあることではないだろうか。

米国の展示会に参加する際には、余裕があれば米国で使われる標準単位を大まかな数字で構わないので頭に入れておくことをお勧めしたい。ちょっとしたことではあるが、話の流れが会話の印象を変えることもあるため、把握して損はないはずである。

4. 押さえておきたい頻出単位

粉体関係だけでなく日常でも頻出する単位として、まず温度を押さえておきたい。米国は Fahrenheit が標準なので装置の設定温度を話すときも Fahrenheit で話した方がたいていの場合は理解を得やすい。変換式で毎回計算していると大変なのでキリの良い値だけ記憶しておけば極端な高・低温でない限りは違いが感覚で分かるはずである~水の凝固点が32°F、体温が100°F弱、沸点が212°Fなど。

長さも日常で頻出する単位だが、種類が多いためすべてを正確に把握するのは大変である。まずテレビのサイズ表示に使われる inch が挙げられる。粉体ではふるい関係に使うメッシュの網目を表す単位として使うことが多いが、「1" = 1 inch = 2.54 cm」である。「1' = 1 foot = 12 inches = 約30.5 cm」と覚えておきたい。その次がゴルフで使われる yard で、「1 yard = 3 feet = 約91.5 cm」と覚えておきたい (英語は単数と複数があるので、1フィートは1 foot と発音する)。

重さも単位が異なる。ounce と pound (lbs) が代表的だが、「1 ounce = 約28 g」と把握し、その流れで「1 pound = 16 ounces = 約454 g」と繋げて記憶しておきたい。自分の体重をポンドで記憶しておくのも感覚を掴むためにお勧めしたい。

5. おわりに

通常助数詞 (数を表す時に数字の後ろに違う助詞をつける語要素。台、匹、本、など) のない英語は数の数え方は日本語よりも単純で簡単なのに対し、話が計算に及ぶと単位の違いから正確な数字を把握することが急に大変になるように思う。かくいう私も換算表を持ち歩かなければ感覚として話が頭に入らないことが多々あるため日々苦労している。換算が複雑な単位で製品、サービスを扱う企業の方々に置かれては、展示会までに独自の換算表を用意し、大まかな数値は頭で変換できるよう準備されることを推奨したい。

もっとも、展示会場で最初に使う英語はおそらく体温確認の応答で使用単位は Fahrenheit になることと思う。